

巻頭言



会長 中前 和則

組織力強化 ～会員のメリットを考えて～

今年もいよいよ残りわずかとなりましたが、会員の皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

さて、当協会では、学術研鑽、広報・公益、生活・身分保障の3つのバランスのとれた会員にメリットのある職能団体を目指しています。先般10月に行われました日本理学療法士協会副会長の小川かつみ氏の応援カード協力に当たり、32万人の目標に対し第1次募集だけで全国で147,000人、県内では6,035人の協力を頂いたとの報告を全国小川かつみ後援会より頂きました。

私たち理学療法士協会には、いくつもの大きな課題があります。喫緊の課題としては、2018年の医療保険と介護保険の同時改定、2025年の地域包括ケアシステムの完成に向けての理学療法士の参画があります。これらの打開に向けては、日々の個々の研鑽に加え組織的活動が必要です。2002年～2006年までの医療改正では、診療報酬は削られる一方で、理学療法料の名前すら消滅しリハビリテーション料にまとめられてしまいました。しかし、2009年に当時政権政党であった民主党に理学療法士の衆議院議員山口和之氏が誕生した途端、診療報酬は大幅アップし、かねてから懸案であった訪問リハビリテーションが東日本震災特区で認められ、正に画期的な出来事でありこれが現実の出来事です。政権政党に組織内議員を置くことは、医師や看護師などのメディカル団体も行っている方法であり、どの団体もしのぎを削って戦っています。当協会は、公益法人であり選挙活動はできませんが、業界の代表として国や県に政策提言をする等の活動はむしろ職能団体としての責務です。今後は、小川かつみ氏が力を付け、立法府に直接働きかけて頂く必要があります。

公益活動としては、本年9月26日から10月26日にかけて、紀の国わかやま国体及びわかやま大会（障がい者スポーツ大会）が開催されました。県選手団への帯同と、開催当日の他府県選手への支援目的でコンディショニングルームを開設いたしました。開催当日は119名の会員が参加し、282人の選手にストレッチングやアイシングを実施して頂きました。大会を通じ対外的には県内外への理学療法の広報につながり、会としてはスポーツ障害に対する理学療法への理解と推進に繋がり大きな成果があったと感じています。参加頂いた会員の方々には、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

学術面では、先日、兵庫県神戸市で第55回近畿理学療法学会大会が開催され、本年度より2日間の開催となり会員の方々も多数参加されたことと思います。来年の56回大会は11月26日(土)・27日(日)に和歌山県民文化会館で開催予定であり、現在、学術局研修部長の小池有美先生(県立医大)に準備委員長をお願いし、準備委員会を発足し準備を進めて頂いています。この大会は若い会員の方々の発表と研修の場としていますので、是非多くの方々の参加及び発表を頂き、皆様とともに大会を盛り上げ近畿の理学療法のレベルアップに繋げて行きましょう。ご協力のほど、よろしくお願い致します。

本年度は、例年の事業に加え補助金事業もあり、会としての活動が増えていきます。これを機に、なるべく多くの会員の方々に参加して頂き、組織としての充実を図り、会員の皆様の直接的・間接的なメリットに繋げていきたいと考えています。会員の方々におかれましても、積極的なご参加、ご協力をお願いいたします。

## ◇平成 27 年度 和歌山県医事功労・知事感謝状贈呈式の報告

副会長 吉富 俊行

平成 27 年 11 月 30 日（月）、和歌山県医事功労・知事感謝状贈呈式がアバローム紀の国 鳳凰の間にて厳かに執り行われました。今年度は当協会より中紀地域局担当理事、老人保健施設リバティ博愛に勤務されている西川典男先生が受賞され、来賓として出席して参りましたので報告いたします。

贈呈式は医事・薬事衛生・保健予防・生活衛生功労と、生活衛生・食品衛生模範施設知事賞があり、それぞれの代表者に仁坂知事より表彰状の贈呈がありました。

西川先生は今回の受賞者の中で最年少で、これまでの協会理事としてのご活躍が認められ表彰に至りました。日頃の臨床はもとより協会運営にもご尽力されている西川先生の今後の益々のご活躍をお祈りし、今回の受賞を協会員全員で称えたいと思います。誠にありがとうございました。



## 理事会 報告

### ■平成 27 年度第 3 回理事会 報告■

日 時：平成 27 年 9 月 12 日（土）16：00～19：00

場 所：和歌山ビッグ愛 12 階 協会事務所

参加者：12 名

（出席理事）中前、林、上西、森本、前、岩崎、松井、池田、永金、辻中、西川

（出席監事）川村

（書記）坂本

議 案

#### 1. 入会申請について

新入会 4 名の申請あり。→承認

平成 27 年 9 月 7 日現在 会員数：1,094 名

#### 2. ノートルココエ E N プランニングからの協力依頼について

今回イベントへの参加協力はせず、協賛金一口 3,000 円を支出する事で協力する。→承認

#### 3. 地域包括支援センター機能強化事業に係る会員派遣について

日当・交通費支給に関する規定について提示

今年度の強化事業の委託に限り摘要とする。→承認

#### 4. 各局からの報告

##### 1) 事務局：資料にそって報告

①会員異動等について報告

②ガイダンスの訂正について

6 月 15 日を締め切りにガイダンスを作成したが、追加・訂正事項があるので、会員各位に修正文書を送付する。

③自宅会員の取り扱いについて

新卒入会者の登録が自宅会員となっていることが多くなっている。自宅会員は勤務していない者のみの取り扱いとして、非常勤であっても理学療法士として就業している場合は勤務施設の登録を行うよう促していく。

##### 2) 学術局

①協会事業履修登録について

新人教育プログラムの履修率は新人については良好な状態であるが、4 年目以上の未履修者の履修率は低迷傾向が見られる。

②理学療法士講習会（PNF）の決算について

3 日間開催で行ったが来年度以降は 2 日間開催で行えないか検討・調整する。

予算計画を詳細に立てた上に赤字決算にならないように検討する。

③第 56 回近畿理学療法学術大会について

パンフレット等、広報展開できないか検討する。

各ブロック学術大会誌が電子版に変更されるにあたって、国会図書館 ISSI 取得のために日理協のサーバーアドレスを使用した登録を出来るように日理協で検討中

④理学療法専門講習会について

来年度は日理協からの補助金は今までどおり支給される。

開催事業の認可においては内容をさらに精査した上で判断してもらう様、日理協に願います。

⑤新人教育プログラム D1～D4 の講習順位について

D4 を 1 番目か 2 番目に行うよう検討する。

3) 福祉・保健局

①介護予防ステップアップ研修会、全国介護予防推進デイ事業に大淵先生を招いて開催する。

②介護予防推進リーダーステップアップ研修会（わかやまシニアエクササイズ指導者養成研修会）を計画していく。

4) 社会局

①資料にて施設の理学療法士長研修会、第 4 回和歌山認知症症例検討会について報告

②知事とコメディカル・スタッフ団体及び病院協会長との懇談会について報告

5) 厚生局

資料にて事業計画としてボーリング大会・ゴルフコンペについて報告

6) 広報局

事業報告として理学療法週間について高校生の施設見学、高野山での杖の無料点検会、新聞広告また事業計画としてバリアフリー体験学習会、伊都振興局主催のイベントへの参加、ふれあい人権フェスティバル 2015 への出展を予定

7) 紀北地域局

資料にて第 1 回紀北地域局研修会報告と第 2 回および第 3 回研修会予定について報告

8) 和歌山市地域局

資料にて事業報告としてメディカルサポート講習会、理学療法専門研修会、第 97 回高等学校野球選手権大会和歌山大会メディカルサポート等について報告、また事業計画として和歌山市局紀北局合同勉強会について報告

9) 中紀地域局

資料にて中紀局研修会、新人教育プログラム報告、また地域医療再生補助金事業にて「脳科学とリハビリテーション」を 9 月 26 日に計画していることを報告

10) 紀南地域局

資料にて第 6 ブロック勉強会実施報告

11) 財務局

会費未納者について

会費未納者への督促・楽天カード加入要請については財務局より各地域局→各ブロック長を通じ、所属施設長から本人に伝えてもらう様にする。

様式については書面を用いて行う。

会費未納者については財務局より今まで通り各地域局に連絡をして催促をして頂きたい。

財務局からも督促状を送る。

5. その他

1) 国体支援特別委員会

最終予算提示と各競技コンディショニンググループへの参加協力者報告（延べ 194 名の予定）

2) 地域包括ケア推進特別委員会

地域包括支援センター機能強化事業における依頼状況を資料にそって報告

19 市町村・31 事業への依頼が寄せられている。

和歌山県には 40 事業分の事業計画で提出調整中

日当・交通費支給に関する規定について承認を得る。

費用の請求は別紙申請書を用いて各自より請求して頂き、振り込みで支給する。

今年度は、地域包括支援センター機能強化事業について県から事業費が支出されているが、来年度は予算化されていない。

## ■平成27年度第4回理事会 報告■

日 時：平成27年11月28日（土）15:30～19:20

場 所：和歌山ビッグ愛 12階 協会事務所

参加者：13名

（出席理事）中前、林、上西、吉富、森本、前、岩崎、池田、南、永金、辻中、安井

（出席監事）浦

（書記）前

会長挨拶：例年に増して委託事業等が多い中、有り難うございます。

今後も大変でしょうがよろしくお祈いします。

### 議 案

#### 1. 各局からの報告

##### 1) 事務局：

###### ①会員異動等について

平成27年11月23日現在 会員数：1,086名

自宅会員が増えているが、基本的には勤務先を登録するよう促していく。

→勤務先の登録をするよう会員に周知する。

###### ②今後の予定の確認

次回理事会は1月23日から1月30日に変更（新年会も日程変更）

次回の理事会時に来年度事業計画を3月の理事会時に事業報告・仮決算を提出する。

5月22日（日）定期総会開催。逆算して資料作りを開始したい。

平成27年3月31日までに事業の終了している局は速やかに事業報告・決算報告を提出する。

平成28年度第1回理事会は4月23日（土）に開催

第2回 6月25日（土）拡大理事会・懇親会開催

第3回 9月10日（土）

第4回 10月29日（土）開催 第5回1月21日 第6回3月11日 予定

###### ③近畿ブロック会議報告（報告書にて説明）

今年の近畿学会より2日間の開催となった、これにより士会分担金を750円にする案が浮上したが、反対士会があったので、今年度は500円であった。

来年度（和歌山）は750円の分担金となる。

今後は2日間の開催も含めて2/21臨時近畿ブロック会議にて検討することとなった。

受益者の負担の増額や広報誌廃止（抄録）の検討も今後は必要である（28年度は広報誌作成）。

##### 2) 学術局：

###### ①第56回近畿理学療法学術大会進捗状況について（資料にて説明）

主な内容を決定する。

演題発表：口述50演題 ポスター72演題

基調講演（1）、特別講演（2）、教育講演（6）、日理協共催（2）、シンポジウム（3）、教育セミナー（8）

講師についてはほぼ決定し、司会・座長の選定に入っている。

###### ②平成27年度組織運営協議会（H27.11.8）報告（資料にそって説明）

管理者の育成研修は今年度7月であったが、28年度は4月を予定する。社会局にて検討

##### 3) 福祉・保健局：資料に沿って説明

###### ①地域包括事業関係に関して、大分県から講師を呼んで研修会の開催を検討し、地域包括推進リーダーのステップアップ研修を行い各市町村で十分に活躍できる人材を育成していく。

##### 4) 社会局：資料にそって報告

###### ①病院協会新春研修会 1月9日（土）アバローム紀の国にて開催

###### ②第5回和歌山認知症症例検討会 1月22日（金）和歌山ビッグ愛12階にて開催予定

##### 5) 厚生局：資料にそって報告

###### ①ボーリング大会の参加者が少なかった。

###### ②新年会は1月23日（土） → 1月30日（土）に変更

##### 6) 広報局：資料にそって説明

###### ①バリアフリー体験学習会（10月10日 南広小、12月3日 中野上小、12月12日 橋本市にて開催）

###### ②ふれあい人権フェスタの開催

###### ③ニュース発刊 今回のテーマは紀の国わかやま国体・大会の特集とする。

###### ④新春新聞掲載 毎日新聞（1月3日）、読売新聞（1月4日）掲載予定

- 7) 紀北地域局：資料にそって説明  
第3回紀北地域局研修会を3月20日開催予定
- 8) 和歌山市地域局：資料にそって説明  
12月6日紀北地域局と合同勉強会開催予定。学術発表として6演題予定
- 9) 中紀地域局：資料にそって説明  
9月26日に「脳科学とリハビリテーション」（地域医療再生補助金事業）を開催する。
- 10) 紀南地域局：資料にそって説明  
①紀南地域局研修会を12月5日開催予定  
②関節運動療法（地域医療再生補助金事業）は1月16日開催に決定する。
- 11) 財務局：資料にそって説明  
①マイナンバー制度の取り扱いについて  
マイナンバー取り扱いについて保管場所・取り扱い責任者・担当者、特定個人情報取扱規程の策定等  
取扱責任者：中前和則 → 承認  
取扱担当者：前裕充 → 承認  
特定個人情報取扱規程の策定は財務局より会計事務所に相談しながら作成する。  
②講師料源泉料にかかるマイナンバーの取扱について説明する。

## 2. その他

- 1) 災害対策特別委員会  
災害リハビリテーション研修会(1月24日開催)について資料にそって説明  
近畿ブロックにも広報する。12月初旬には広報する。
- 2) 倫理委員会：資料にそって説明  
近畿学会時に倫理委員会議が開催され、現在の問題や今後の方針などを検討した。  
次回和歌山開催でも会議開催を継続していく予定ですすめている。
- 3) 国体支援特別委員会  
①国体支援について資料にそって説明  
わかやま国体 延べ人数 89名（登録63名）  
わかやま大会 延べ人数 104名（登録56名） 総延べ人数 計 193名  
②県に報告書を提出済み。各競技開催の市町村にも報告する。
- 4) 地域包括ケア推進特別委員会：資料にそって説明  
地域包括支援センター機能強化事業（県より委託）における依頼状況について  
全体で35回予定（介護予防事業、健康教室、医療相談会、地域ケア会議、訪問指導等）  
県のPT・OT・STで協議会を立ち上げ協議を行っている。
- 5) 選挙管理委員会  
9月26日に日本理学療法士協会にて会議有り、選挙管理委員長（中畑氏）が出席  
内容は事務局森本より報告書を説明する。  
平成28年1月6日代議員選挙告示、2月8日立候補者公示、2月15日投票開始、2月28日開票

次回理事会 1月30日（土）開催

## 福祉・保健局より

福祉保健局担当理事 松井 有史

福祉保健局では、下記の通り委託事業や独自事業を行いました。協会の倫理規定の中に、社会や市民に対し、不断の努力と善意をもって寄与するよう傾注することが望まれるとしており、福祉保健局はその一翼を担う局でもあります。地域の皆様と福祉、保健活動を通して理学療法士のつながりを持つよう積極的に事業展開を行う予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

## ◇「介護予防ステップアップ研修会」

地域包括ケア推進部長 林元 光広

平成27年7月11日に行われました「介護予防ステップアップ研修会」です。介護予防事業は今後の理学療法士の職域に大きく関係する分野となりつつあります。今回トピックスで介護予防について東京都健康長寿医療センター研究所所長の大淵先生をお招きして、介護予防に関する知識を共有する機会を作りました。また和歌山県の現状と課題についても報告を行い、有意義な研修会であったと自負しております。



開催日：平成27年7月11日（土）14時～17時（受付13時30分～）

会場：和歌山県子ども・女性・障害者相談センター

対象：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 各協会の方

参加者：理学療法士68名・作業療法士6名・言語聴覚士2名 合計76名

### 「介護予防ステップアップ研修会」に参加して

訪問看護ステーションはやしもと 川口 香容

平成26年度から日本理学療法士協会では、介護予防推進リーダー制度が制定され多くの会員がリーダーを取得し、そのステップアップ研修として、今回実施したとのことです。前半はリーダー取得者の2名より和歌山県・和歌山市における介護予防事業の取り組みを紹介し、後半は介護予防に長年取り組んでおられる東京都健康長寿医療センター研究所の大淵修一先生より介護予防の基礎から実践方法についてご講演いただきました。

すべての市町村で介護予防・日常生活支援総合事業が開始される平成29年度を目前に控え、リハビリテーション専門職においても介護予防分野における活躍が期待されており、専門職・リーダー取得者としてどのように介護予防事業に関わっていくのかを学習でき、とても有意義な時間を過ごすことができました。

## ◇全国介護予防推進デイ事業（広報局共催）

福祉・保健局長 岩崎 正和

地域包括ケアの推進に伴い介護予防施策が今後ますます重要になります。日本理学療法士協会より理学療法の日に合わせて7月12日（日）に全国一斉に介護予防事業を行うこととなり、福祉保健局から「介護予防市民セミナー（介護予防で元気を呼ぼう！～膝痛・腰痛ゼロ作戦～）」と題し、地域住民対象に介護予防事業を実施致しました。ご協力・ご参加いただきました先生方、ありがとうございました。

日時：平成27年7月12日（日） 午前9時15分～11時45分（受付9時～）

会場：勤労者総合センター（和歌山市西汀丁34番地 市役所西隣）

講師：大淵 修一 先生（東京都健康長寿医療センター研究所）

対象：和歌山市民（おおむね65歳以上の方）

内容：講演、理学療法士による身体機能評価、介護予防指導

主催：公益社団法人 和歌山県理学療法士協会

協会員：岩崎（栗原整形）、吉富（日赤医療センター）、宮本（リバティ博愛）、赤澤・中谷（河西田村）

佐野（済生会有田）、小橋・畑中（恵友）、阪口（海南医療）、龍神（龍神整形外科）

林元・川口（訪問看護はやしもと）、阿川（辻秀輝整形外科）、奈良岡（有田市立）

林・西本（貴志川リハビリテーション）、脇田（はしもと整形外科）、松井（国際厚生）

参加者：54名（参加者36名・外部関係者18名）



## 「全国介護予防推進デイ事業」に参加して

寺下病院 西本 憲輔

7月12日に和歌山市で地域高齢者対象に介護予防事業に参加させていただきました。

30数名（平均年齢70歳）の応募があり、当日参加していただいた方々をみると、とても若くて圧倒されました。

まず初めに大淵先生による「介護予防で元気を呼ぼう！～膝痛・腰痛ゼロ作戦～」の講義があり、その中で体を動かす体操等、皆さん真剣に取り組んでいました。

その後、我々和歌山県理学療法士協会による身体機能評価を行いました。評価項目は長坐位体前屈（柔軟性）、姿勢評価、10m歩行測定、30秒立ち上がりテスト、膝伸展筋力でした。私は膝伸展筋力測定の担当でしたが、参加者の中には力が強すぎて自分の体のはじかれるほどの強者もおられました。

最後には評価後運動指導を大淵先生、身体機能評価の結果説明を和歌山国際厚生学院の松井先生が行い、終了しました。

この事業に参加して、今後理学療法士が求められる資質に関してとても勉強になりました。今後も和歌山県理学療法士協会を通じ、社会の為、理学療法士の為、自分の将来の為、参加していく所存です。

## ◇「腰痛を起こさない介護技術研修」

介護保険対策部長 赤澤 直紀

県全域から介護に従事する方々に参加を頂きました。参加者の皆様が熱心に取り組んで頂いた結果、研修は盛会となり、我々の腰痛予防に関する知識・技術を十分に伝達することができたのではと思います。運営にご協力頂きました先生方に御礼申し上げます。

事業名：「腰痛を起こさない介護技術研修」～介護現場の腰痛予防対策～

主催：和歌山県社会福祉協議会

日時：平成27年8月22日（土）

会場：ビッグ愛 展示ホール

講師：山本哲生（紀州訪問看護）、赤澤直紀（河西田村）

対象者：和歌山県の施設・在宅介護従事者32名

参加者：大川・中谷（河西田村）、井上（きのしたクリニック）、山本（横手クリニック）、松井（国際厚生）



## 「腰痛予防・介護技術指導者育成研修」に参加して

河西田村病院 中谷 聖史

県民交流プラザ和歌山ビッグ愛にて平成27年8月22日（土）に行われた「腰痛を起こさない介護技術研修」～介護現場の腰痛予防対策～にスタッフの一員として参加させて頂きました。まずは腰痛の発生原因や腰痛予防のポイントについての座学、次に腰痛を起こさない介護技術の実技指導、最後に腰痛予防体操というものでありました。

約30名の参加者（主に介護職員）の皆様には熱心に取り組んで頂き、実技指導の際には、介助する側・される側を体験し意見を述べ合うなかで、介助において身体の使い方等のポイントがいかに重要であるかを実感して頂けたと思います。また今回質問も多く職場での介助において相談も受け、私自身が臨床において行っている介助法であっても、それを言語化し、尚且つ分かりやすく相手に伝えることの難しさを感じました。

今回、このような研修に参加させて頂き、私自身学べたことも多く貴重な体験となりました。そして、他職種の方に動作介助の方法を分かりやすく説明できるように、自身の知識・技術の向上に努め、今後もこのような機会があれば積極的に参加させて頂きたいと思っております。

## ◇「介護予防につながる肩こり・ひざ痛予防と予防体操」

介護保険対策部長 赤澤 直紀

介護者の肩凝り・腰痛・膝痛の予防と予防体操のテーマで和歌山市家庭家族介護教室の事業協力を致しました。介護者の腰痛等の痛みに関する悩みは、介護場面において深刻な問題になります。参加して頂いた方は、熱心に講義を聞いてくださり、予防体操にも積極的に取り組んで頂きました。本教室の内容が少しでも介護者の痛みの予防または緩和に繋がればと思います。また2回目は12月上旬に行う予定です。

事業名：和歌山市家庭家族介護教室

講座名：「介護予防につながる肩こり・ひざ痛予防と予防体操」

主催：和歌山市地域包括支援課

日時：平成27年10月31日（土）

会場：龍神整形外科（リハビリテーション室）

講師：赤澤直紀（河西田村）

対象者：和歌山市在住住民 26名

参加者：大川・中谷（河西田村）、龍神（龍神整形外科）



## 「介護予防につながる肩こり・膝痛予防と予防体操」に参加して

横手クリニック 山本 繁樹

平成27年10月31日（土）に龍神整形外科リハビリテーション室にて行われた「介護予防につながる肩こり・膝痛予防と予防体操」に運営スタッフの一員として参加させて頂きました。本事業は、市内在住の在宅で高齢者を介護しているご家族様や、介護予防や健康増進のため肩・膝痛予防に興味のある方を対象に行われ、今回は26名の参加でした。内容としては、肩こりや膝の痛みの発生原因についての説明、またそれに対する予防法となる自宅でも簡単にできる体操をまじえ、参加者の皆様にも体を動かさせて頂きました。そして、前後半の休憩においては参加者からスタッフへの個別相談もあり活気に満ちた時間でありました。個別相談のなかでは、膝痛に対して減量が良いというのはテレビ等で知っていたが、急激な過度の減量は筋肉量も低下させてしまうこと、減量は1か月で1%が目安となることなど、はじめて知ることや、具体的な数値目標が提示され、わかりやすかったとの声が聞かれました。本事業をきっかけに、参加者の皆様が、自身の健康や介護予防の必要性について考えを深め、実行して頂ければ嬉しく思います。

今回、参加させて頂き、参加者の健康維持・増進に対する意識の高さを知ることが出来、貴重な体験となりました。今後もこのような機会があれば積極的に参加させて頂きたいと思っております。

## ◇「健康福祉イベント」参加

地域リハ事業推進部長 中口 孝昭

海南市、上富田町の健康福祉イベントに和歌山県理学療法士協会のブースを出展しました。

この事業を他の市町村でも展開したいと考えています。我々が地元の方々へ専門職としての理学療法士を広報できる一番の機会だからです。マニュアル・展示パネル・そして配布グッズ準備しております。

参加ご協力いただける先生！またご自分の地域の祭りでも出展されたい先生！一報をお待ちしております。

## 海南市民健康まつり

主 催：海南市  
日 時：平成 27 年 10 月 18 日（日）  
場 所：海南市保健福祉センター  
内 容：くび肩・腰・膝疾患その他、住民等に対するリハビリ相談  
対 象：海南市住民、保健福祉関係者  
参加者：田伏（辻秀輝整形）、永春（海南医療）、美多賀鼻（恵友）  
土井（竹中整形）



### 「海南市民健康まつり」に参加して

海南市保健福祉センターにて海南市民健康まつりが開催されました。和歌山県理学療法士協会からもブース参加で会員 4 名が参加し、在宅でのリハビリや健康相談、杖の点検及び協会活動のパネル展示などで協力させて頂きました。当日は快晴で私たちのブースに 40～50 人の方が来られて大変にぎわっておりました。今回の相談に来られた方々は、症状としてはまだ現れていない、予防することにより寛解する方もおられたと思います。こういった方達を、運動指導等を行うことで予防し、減らしていくことも私たちの仕事の一つだと感じました。

今回参加させていただいたことで、リハビリに通院されていない方の生の声を聞くことができ、大変良い経験ができ、勉強になりました。最後になりましたが、一緒に御参加頂きました先生方、御参加頂きました方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

海南医療センター 永春 太輔



## かみとんだ健康福祉と文化のまつり 事業参加

主 催：上富田町  
日 時：平成 27 年 11 月 8 日（日）  
場 所：上富田福祉会館  
内 容：くび肩・腰・膝疾患その他、住民に対するリハビリ相談  
対 象：上富田町住民、保健福祉関係者  
参加者：須賀・廣田（白浜はまゆう）、鳥淵（訪看ふるさと）、武田（紀南）

### 「かみとんだ健康福祉と文化のまつり」に参加して

11 月 8 日に上富田町で行われた健康福祉と文化のまつりに参加させて頂きました。当日は雨天にもかかわらず大勢の町民の方が来場され、我が和歌山県理学療法士協会のブースも盛況でした。腰・肩・膝に関する相談コーナーでは自宅でのストレッチや筋力トレーニングの方法をパンフレットを用いながら皆さんに説明させて頂きました。説明をした後にさらに別の質問が返ってくることもあり、熱心に耳を傾けられていた方が多かったと思います。今回通常の業務とは違い、広く地域の皆様の健康維持に貢献させて頂く経験ができたことは非常に勉強になりました。今後もこういった機会があれば参加させて頂きたいと思います。

老人保健施設成華苑 泉 順和



## ◇平成 27 年度施設の理学療法士長研修会報告

社会局 診療報酬身分対策部 杉本 恵章

平成 27 年 7 月 12 日に和歌山県立医科大学臨床講堂 1 において平成 27 年度施設の理学療法士長研修会が行われ、県内の施設長や管理者等 110 名の参加がありました。

中前会長の挨拶の後、公益社団法人 日本理学療法士協会 職能課 主任 野崎展史先生より「平成 30 年度医療介護同時改定に向けた本邦の動向と課題」というタイトルにてお話がありました。今年度の介護報酬マイナス改定についての説明から始まり、人口の急減や財政的な側面からのお話から、国民のニーズに合った理学療法を提供できなければ、今後も介護報酬が下がる可能性があるとの事でした。平成 27 年度介護報酬改定ではリハビリテーションに関する改定内容がこれまでにないほど多かったとの事で、リハビリテーションが試されているのではないかと結果を出さなければ平成 30 年度改定では報酬を削られたりするのではないかととの事で、今回の改定項目を育てて行く必要性を訴えられました。

介護報酬各論についてデータを示しながら説明がありましたが、お話の中で病院勤務であっても自分の町がどうなっているかを意識する事が大切であり、リハビリテーションを提供する理学療法士が町づくりを提言し、町全体をリハビリテーションしていく必要性を訴えられていた事が印象に残りました。身体機能の改善重視から生活場面を見据えたリハビリテーションを提供していく必要性を感じました。

地域生活を支援するとして産業保健分野のお話もあり、肩凝り、腰痛、手足の痛み、痺れ等我々理学療法士が日常的に遭遇する症状で困っている労働者が多くおり、これらの労働人口減少による社会的損失について説明され、理学療法士も産業分野に参入して行く重要性を訴えられていました。

最後に ADL 維持向上等体制加算を獲得するに至った背景についてお話があり、廃用予防を担うのは理学療法士であり、理学療法士が当加算の重要性を医師に働きかけ、広げて行く事で我々の新しいポストを作り職域を拡大していく事が必要であると説明されました。

次いで中前会長より「理学療法業界の発展のために 一行政府・立法府への働きかけ」についてお話がありました。

医療制度やリハビリテーション関連の診療報酬の変遷、理学療法士協会と厚生労働省との折衝についての経緯等について話されましたが、山口和之先生が衆議院議員に当選されてからこれまでの状況が一変したため、政治の場に我々理学療法士の代表を送る重要性を説明されていました。

最後に野崎先生が話されていた「歯車になるな、原動力になれ！」という言葉が印象的でした。我々理学療法士も社会における歯車の一つかもしれませんが、みんな一人ひとりが心の持ち方一つで社会の大きな原動力になる事ができると思います。理学療法業界発展のため、全ての理学療法士が一丸となって向かっていく事が大切だと思います。

## ◇平成 27 年度知事とメディカルスタッフ団体並びに病院協会会長との懇談会報告

日 時：平成 27 年 7 月 14 日（火） 19 時～21 時

場 所：ホテルアバローム紀の国 3 階「孔雀の間」

出席者：

・県側 7 名

和歌山県知事 仁坂吉伸、福祉保健部長 幸前裕之、健康局長 野尻孝子  
医務課長 鳥淵博文、健康推進課長 中西 淳、薬務課長 福田泰博、  
医務課長補佐 藤岡敬之

・医療関係団体 19 名

(公社) 和歌山県栄養士会 会長 畑中一浩 副会長 川村雅夫  
(一社) 和歌山県臨床工学技士会 理事長 土井照雄 副理事長 植木隼人  
(一社) 和歌山県作業療法士会 会長 川 雅弘 副会長 寺本千秋  
(公社) 和歌山県看護協会 会長 古川紀子 専務理事 小泉美穂  
(一社) 訪問看護ステーション連絡協議会 会長 南たえこ  
(一社) 和歌山県放射線技師会 会長 川合久之 副会長 中尾裕次、谷口喜行  
(一社) 和歌山県臨床検査技師会 会長 玉置達紀 副会長 竹中正人

(公社) 和歌山県理学療法士協会 会長 中前和則 理事 池田吉邦  
(一社) 和歌山県病院薬剤師会 会長 阪口勝彦 副会長 岩城久弥  
(公社) 和歌山県病院協会 副会長 上野雄二

## 懇談会

上野副会長と仁坂知事の挨拶の後、医事行政幹部とメディカルスタッフ団体が自己紹介を行った。  
県から今年度の新たな医事行政の取り組みについて説明があった。

## 【医務課・鳥淵課長】

### ・地域医療構想について

団塊の世代が全て75歳以上となる2025年問題を見据え、昨年6月に「医療介護総合確保推進法」が成立した。2025年に向けて、患者の病状（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）に応じた適切な医療を、将来にわたって持続的に受けられる体制をいかに構築していくかが課題である。そのためには、1つは、「医療機能の把握・明確化」が必要であり、昨年10月から、「病床機能報告制度」を開始し、各医療機関から病棟単位で、また、医療機能の「現状」と「今後（6年後）の方向」を毎年報告してもらうこととなった。今年3月に国から示された「ガイドライン」に基づき、将来の医療需要を推計し、二次医療圏毎の各医療機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）の将来の必要量等を分析し、将来（2025年）の目指すべき医療提供体制として「地域医療構想（ビジョン）」を、今年度中に策定を目標にしていくこととなった。

病床機能報告制度で報告される現状の病床数と構想区域ごとの必要病床数を比較分析し、「地域の実情」を加味した上で、2025年の医療需要にふさわしい医療提供体制に向けて病床再編を進めていく。

地域医療構想策定後、構想実現に向けての取組として、構想区域（二次医療圏）毎に協議の場（地域医療構想調整会議）を設置し、まずは医療機関相互の協議により、病床再編を推進する。具体的には、例えば急性期病床から地域包括ケア病棟といった回復期病棟へ転換し、病床機能報告と地域医療構想の必要病床数が一致する方向への収れんを目指していく。

あくまで各医療機関の協議により病床再編等を行うことが基本だが、法的には、それが進まない場合は、医療審議会の意見聴取を踏まえ、県が「要請」「勧告」「措置」といった対応をすることになるので、そうならないように、構想策定の段階からしっかりと協議を行っていききたい。

なお、先日、内閣官房の専門調査会報告を受けて、2025年の医療機能別必要病床数の政府推計が新聞等に掲載されたところである。

これによると全国ベースで1割以上、和歌山県では2割～3割の病床を削減と試算されたが、これらは国のガイドラインで示された計算方法を一定の仮定をおいて機械的に計算したあくまでも参考値であるが、将来的には、人口減少に伴い病床再編することは必須であることから、県が現在分析してしており、今後お示しする客観的データに基づき、各圏域毎に議論を重ねて頂き、地域医療構想策定後も丁寧な説明と調整を行っていく所存ですので、皆さんのご理解、ご協力をお願いしたい。

### ・在宅医療について

地域医療構想を実現する上でも、また、地域包括ケアシステムを構築する上でも、在宅医療を充実させていくことが益々重要となってくる。

県では、昨年末から県内全病院及び全診療所に対するアンケート調査と、在宅医療を推進する上でのキーマンへのヒアリング調査を実施し、在宅医療を推進する上での課題や今後の方向性を検討した。

今後は、在宅医療を希望する患者・家族が安心して療養できるようにするため、「わかやま在宅医療推進あんしんネットワーク」という全県的な在宅医療提供体制の構築を目指していく。各圏域毎に、在宅医療サポートセンターを中心として、次の4つのネットワークを有機的に構築、機能していくことで、在宅医療を推進していく。

「在宅医ネットワーク」と「後方支援病院ネットワーク」は、在宅医（＝かかりつけ医）とそれを支える支援病院を在宅医療サポートセンターに登録し、退院時の在宅医紹介や急変時の入院受入などが、より一層スムーズにいく体制を構築する。「かかりつけ医サポートネットワーク」と「訪問看護ステーション・薬局連携ネットワーク」は、かかりつけ医や訪問看護ステーション、薬局間のネットワークを構築することで、それぞれの負担軽減を図り、1人あるいは1つの訪問看護ステーションだけでは困難な24時間365日対応できる体制を可能にし、在宅医療の充実を図っていく。

今後、圏域別で地域の実情も考慮しながら、具体的な施策の実施に向けて議論いただき、体制の整ったところから事業を実施していく予定である。

「地域医療構想」や「在宅医療推進」についてご理解いただき、それぞれの立場でご協力をお願いしたい。医療・介護の連携についてメディカルスタッフの方々におかれても、退院調整や日常の療養支援、急変時への対応、

看取り等さまざまな局面で医療介護の連携・病診連携・病病連携が大切になり、国においては病院だけで完結する医療から、在宅で患者が望む質の高い医療を地域全体で受けられる制度の整備を目指している。

県においても平成25年から採択して進めている在宅医療連携拠点事業は、現在15拠点を採択されている。在宅医療を推進するために主治医をサポートするさまざまな人材育成が必要と考えており、医師・歯科医師を始め、皆様方メディカルスタッフを含め多職種の方々がそれぞれの立場で、在宅においてチーム医療を実践していただくための、研修など各種施策等に取り組んでいきたい。

24時間365日の患者対応が可能となる体制を、どのように地域毎で作って行くかが大きな課題であり、それぞれの地域で関係機関と協議し、患者から在宅医療に関する相談を受ける総合的な窓口の設置や、病診連携など、具体的に相互の顔が見える関係でのネットワークの構築に取り組みたい。

## 質疑応答

### 【臨床工学技士会・植木副理事長】

和歌山県広域災害救急医療情報システムとの連携について伺いたい。

### 【医務課・鳥淵課長】

ICG等を活用したネットワークというイメージより、それぞれの活動をネットワークでつないでいくイメージで、直接的な位置づけではない。

### 【健康推進課・中西課長】

#### ・感染症対策について

韓国のMERSについては、1週間にわたり新たな患者が発生しておらず落ち着いた感があるが、今回の韓国のMERS、昨年11月のエボラ出血熱、8月のデング熱と、この1年間、外国からの輸入感染症が課題になっている。

輸入感染症の対策としては、空港や港での検疫所による「水際対策」と、検疫をすり抜けた場合の「感染拡大防止」の2段階で備えている。感染拡大の防止については、原則患者がいる県で医療を完結させることになっており、県では感染症指定医療機関として7病院を指定し対応している。韓国でのMERS感染の拡大は、初期対応のまずさや独特な医療分化が指摘されているが、隣国で感染拡大が起きた現状の中で、県内の病院においても、これらMERS等の輸入感染症の患者が受診する可能性を想定すべき時代になっており、備えとして、院内感染対策について全ての医療スタッフが体制を整える必要がある。今回の韓国のケースについては、いろいろな検証がされており、国からの情報については情報提供をまいりますので、それらの具体的な事象を教訓として院内感染対策等について体制を整えていただきたい。

#### ・がん対策について

がん医療については、県内の各医療圏域において、がん診療拠点病院等を指定して、県内のどこでも質の高いがん医療を受けることができるよう取り組んできた。

がん診療拠点病院においては、質の高い医療を提供するため、放射線療法、化学療法、緩和ケアの更なる充実とチーム医療に取り組んでいる。チーム医療、がん医療の質の向上のためには、さまざまな立場からの意見が反映できる医療体制、チーム医療が重要である。がん患者に対してなされるチーム医療には、栄養管理サポートチーム・摂食嚥下チーム・リハビリテーションチーム・褥瘡管理チームなどがあるが、ここにおられる多職種の皆さんが、メディカルスタッフとしてがんのチーム医療に参加していただくことが、がん医療の質の向上となり、がん患者の療養生活を高めることになると考える。

#### ・関係する団体への協力依頼

### 【栄養士会】

死亡原因の6割を、がん、心疾患、脳血管疾患の生活習慣病が占めており、この対策が大きな課題となっている。健康づくりの基本は、適正な食生活をすることであり、毎年「食育と健康フェア」を開催し、来場者への栄養診断、栄養相談を行い、生活習慣の改善に取り組んでいただいております。今年も11月1日(日)に開催しますので、ご協力をお願い致します。

### 【臨床検査技師会】

エイズ予防対策について、感染者は、年代別では30代、40代が多く、近年若者の報告が増加している。県では、世界エイズデーの啓発の一環として、和歌山大学の学園祭において、学生を対象にした講演会、HIVの検査

を行っており、臨床検査技師会から、昨年 11 人の臨床検査技師の参加を頂き、パネル説明や即日検査をして頂いている。昨年は約 200 人の来場者があり、32 人が即日検査を実施した。今年も 11 月 21 日(土)に開催しますので、ご協力をお願い致します。

#### 【臨床工学技士会・訪問看護ステーション連絡協議会】

災害時の難病患者、特に在宅人工呼吸器利用者への対策について、災害時の要援護者として、どこに、どのような状態で生活しているのか、リアルタイムで把握し平事から情報を共有しておくことが必要である。

在宅人工呼吸器利用者の約 6 割は、難病患者、介護保険利用者で、県・市町村で把握しているが、それ以外の利用者については、把握が困難であり、訪問看護ステーションにより支援を受けている方、臨床工学技士の方は病院から退院時の在宅の状況が把握できるのでご協力をお願い致します。

#### 【薬務課・福田課長】

##### ・国体におけるうっかりドーピング防止について

国体選手の意図しないドーピング、いわゆる「うっかりドーピング」の防止を図るため、選手や関係者に配布パンフレットの作成、薬局等で禁止物質を含まない医薬品に表示する「安心薬カード」の作成、医療関係者に対する研修等を実施させて頂き広くドーピング防止の知識の普及に努めている。またドーピングの知識に精通していると認定された薬剤師さんであるスポーツファーマシストを昨年 102 名を養成し、すでに認定された方を含め、現在 158 名の方が登録されている。県内で開催されるすべての競技にスポーツファーマシストを配置する取り組みは、国体では初とのことで、日本アンチドーピング機構からも評価をいただいているところである。さらに、大会直前から大会期間中には、参加選手等からの相談を 24 時間受け付けることができる窓口の設置に向けた準備を現在行っているところである。ドーピングゼロを目指しておりますので、ご協力よろしく申し上げます。

##### ・災害対策用医薬品について

災害対策用医薬品等については、和歌山県医薬品卸組合での流通備蓄をはじめ、臨床検査薬、酸素等医療用ガスなど、大規模災害時に必要な医薬品等の確保をそれぞれの関係団体と協定を締結しお願いしているところである。特に、災害発生時における医薬品を確保するため、災害拠点病院には平成 24 年度から、災害支援病院には平成 26 年度から災害対策用医薬品の備蓄をお願いしているところである。この医薬品について、関係の病院の薬剤師さんには、日頃から適正な管理に努めていただいておりますこと、この場をお借りしてお礼申しあげます。今後とも、大規模災害の発生に備え、必要な医薬品等が的確に確保できる体制づくりに努めてまいりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

##### ・危険ドラッグについて

平成 24 年に知事監視製品という独自の制度を導入した「薬物の乱用防止に関する条例」を制定し、現在累計で「知事監視製品」として 478 製品、「知事指定薬物」として 38 物質を指定し、撲滅に努めている。また、「知事監視製品」等の指定時には、各病院にも案内しておりますので、これらのものに起因する中毒症状などを呈した患者が受診した際には、当課に情報提供をいただくようお願いしているところである。現在は、全国的な危険ドラッグに対する規制の強化により、販売店及びインターネットの販売サイトが激減している状況となっているが、危険ドラッグの撲滅に向け、気を許すことなく取り組んでまいりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

#### 質疑応答

##### 【上野副会長】

がん対策について、がんは臓器別の治療となり、診療科が分かれる。がん対策といわれても臓器が別々（診療科が別々）になるので、その点はどうか。医療的にもシステム化は難しいのではないのか。

##### 【健康推進課・中西課長】

がんの場合、手術療法・化学療法・放射線療法の 3 つの療法がある。患者にとって最も適切な療法をどのようにして選択されていくのかですが、腫瘍内科でがんについてどの療法が適切かを選択している。

##### 【上野副会長】

がん登録について、1 度でも診察したら登録するのか。重複する問題はないのか。

##### 【健康推進課・中西課長】

最初がんにかかったところが、登録するのが前提であり、重複はないと考えている。平成 28 年 1 月から「がん登録法に基づくがん登録」が始まる。全ての病院が「がん登録」をしなくてはならなくなる。クリニック・診療所については、希望する施設が「がん登録」に加わっていただく。今後は罹患率等の詳しいデータが出てきて、がんについての基本的な事がわかる時代になると考えている。

・各メディカルスタッフ団体からの話題提供

【栄養士会】

組織力の強化、人材育成を今年度は重点的に取り組んでいく。

県内全ての病院に勤務する管理栄養士へ栄養士会への加入を促し、組織の強化を図る。

従事する医療機関の格差をなくし、職能団体としての共通意識を持ち、チーム医療に貢献出来るよう、専門性が高く高度な内容の研修会を開催することにより、チーム医療・地域連携に貢献出来る人材を育成していく。

【臨床工学技士会】

医務課主導の災害時透析支援検討会の情報共有を行い、県神経難病ネットワークへの参加と情報共有を行っていく。今後は、人工呼吸器医療者間患者の在宅に対し協力していきたいと考えている。

そこで、在宅人工呼吸器利用者の電源確保事業の補助金についてお聞きしたい。

また、健康推進課主導の「災害時の在宅人工呼吸器患者支援検討会」の設置を提案したい。

【健康推進課・中西課長】

非常用発電機の無償貸与については、平成 25 年から実施している。現在県で把握している人工呼吸器の医療患者は 80 名程である。呼吸器は夜間のみで使用者で、発電機の必要が無い方が 27 名。非常用発電機の使用者が 35 名。内 5 割弱の方が、県の補助金によって助成された。今年度は 200 万円弱の予算があり、現在働きかけている。

災害時の在宅人工呼吸器患者支援検討会については、臨床工学技士会・訪問看護ステーション連絡協議会が加入をされている「神経難病ネットワーク」の中で、新たに業者や医療情報ネットワークが入った検討会を新たに設置していきたい。今年度中に 1 回開催したいと考えている。

【臨床工学技士会・植木副理事長】

非常用発電機の課題点として、発電機の請求方法が複雑である。案内が呼吸機使用の患者に伝わっているのか疑問。平成 19 年に医務課主催の透析患者検討会が設置され、そこで安心メール等、精神科と共有しているシステムがあった。また、医務課主催で各団体で透析の患者会があったり、県の臨床工学技士会も呼んでいただいて、意見交換ができた。精神科が主導と各医師会や訪問看護ステーション連絡協議会等と集まって意見交換して課題点をクリアしていきたい。

【作業療法士会】

4 月に理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会 3 つのリハビリテーション職種が集まった「県リハビリテーション専門職協議会」を設立した。市町村からの地域支援事業等のリハビリ専門職種の派遣要請等が増えることが予想されるので、対応できる窓口を作った。今後は、それぞれの職種に共通する訪問リハビリテーションや、災害リハビリテーション等、共通するテーマについては、3 団体で協力しながら進めていきたい。地域包括ケアシステムについて、今年度長寿社会課から、県内の地域包括支援センターの強化支援事業を受託した。各地域包括支援センターからリハビリテーション職種を派遣し、介護予防や地域包括ケア会議への助言等に参加していくことになっているが、病院に勤務する職員が多いので、地域の事情も、介護保険制度へも対応できる人材を育成しているところ。認知症の初期集中支援チームへも、作業療法士として、協力できるような人材育成研修に取り組んでいる。

紀の国わかやま大会の選手に対するコンディショニングサポートについて協力している。大会当日は 32 名で対応することになっている。

【看護協会】

団塊の世代が全て 75 歳を迎える 2025 年に向けて、「施設」から「在宅」へという地域包括ケアの流れの中で、疾病予防とともに、病気を抱えながら地域で安心して生活するためには、医療、看護、生活支援等が身近なところでサービスが受けられることが重要である。在宅の担い手である看護職員が大きな役割を果たすと考える。そのためには、看護職員の確保・定着、資質の向上、及び「つなぐ看護の実践」「多職種との連携」が重要となる。

看護職員の確保定着

- ・平成 27 年 10 月から開始する退職時及び潜在看護職員の届け出制度の周知徹底
- ・ナースセンターの活性化
- ・WLB 推進事業の更なる推進（離職しない体制づくりの構築）
- ・潜在看護職員の復職支援研修の開催
- ・在宅・介護施設等に勤務する看護職員の資質向上

- ・「訪問看護推進事業研修」の開催
- ・「看護の出前講座」の開催（県内8地区）
- ・特定行為に係る看護師の研修制度について、各施設に積極的に情報提供を実施

#### 連携

- ・看看連携の実践（訪問看護師と病院看護師との連携）
  - ・他職種との連携
- また、救急分野における熟練した看護実践能力を身につけるため認定看護師の育成を推進している。

#### 【放射線技師会】

市民公開講座を実施している。一般市民に被爆相談を行っている。被爆洗浄にからんで取り組んでいきたい。今年3月に医務課が来て、関西広域連合で、協定を結ぶという話があったが、その後はどうなったか。近畿の6府県と協力し合って関わっていきたい。

#### 【医務課・鳥淵課長】

放射線被曝防止に関する関西広域連合の包括協定の話は、3月にそのような話があった。大きく3つあり、被災者の輸送機器（バス）、放射線被曝防止、二次避難所この3つを合わせた形で包括的に協定を結べないかという話が、関西広域連合の広域防災局からあった。協定のイメージとしては被災県（福井県）の30km圏が滋賀や奈良、京都にもかかり、そういった県から要請に基づいてそれぞれ一次的には、大阪や兵庫が受け入れて、さらに二次的に和歌山県が入っている。それぞれの団体と協定を結んで、スクリーニングや除染について協力体制を結べないかという話だったが、緊急輸送のバスの部分で、運転手が被曝することに対してどのような対応をするか等で、包括的な協定の根本の部分で議論が煮詰まっていない。現在は前に進まずに止まっているという状況。協力していくとなると、汚染のスクリーニングや除染の人材育成という部分が大事になってくると考えているので、具体的な議論が進んでいった中で、関西広域連合の広域防災局へ意見を言っていきたいと思っている。

#### 【臨床検査技師会】

大規模災害時の体制について、当初は医薬品等充実しているかと思うが、数日経つと、感染症の問題等、診断薬が少なくなってくるのが、あまり意識されていないように思う。和歌山県と臨床検査薬卸連合会との間で2年前に全国に先駆けて協定を結んだと聞き、一緒に盛り上げて行きたいと考えている。

合同輸血療法委員会が作られているが、少子高齢化に向かっていくのに、適正かつ有効な輸血療法を視野に、県として輸血療法委員会の進捗状況をお聞きしたい。また、イベント等あれば、案内を臨床検査技師会に頂きたい。

#### 【薬務課・福田課長】

合同輸血療法委員会について、血液製剤の適正な使用について国からも通知があり、平成20年、23年度に血液製剤の適正使用の講習会を開催した。平成26年2月には和歌山県で合同輸血血液療法の懇話会を設置し、翌月第1回の懇話会を開催した。県内の血液療法の血液製剤を使用する病院の職員に委員になっていただいて、日赤の血液センター所長、薬務課長等、合計7人編成の懇談会であった。今年度開催予定で調整中である。

#### 【理学療法士協会】

地域包括ケアについては、昨年から、地域包括ケアの推進リーダー研修を実施し、地域で活躍できる人材を育成する目的で、研修会を重ねながら、市町村からの依頼への対応など、活動している。予防についても、予防リーダー研修を行い地域の高齢者の健康維持に取り組んでいる。

今年は準アスレチックトレーナーを養成し、他府県から来る選手を支援し、おもてなしをすることになった。ウエイトリフティング・新体操・硬式野球・空手・剣道・レスリング・軟式野球にコンディショニングルームを開設することになっている。

障害者水泳と障害者陸上へも、準アスレチックトレーナーとして参加させて頂く予定である。

#### 【病院薬剤師会】

今年の国体においては、スポーツファーマシストとして、お手伝いする予定。

医薬品の災害時の備蓄に関して、後発医薬品が推進されており、備蓄が後発品に代わってきている。後発医薬品の備蓄について、把握されているかお聞きしたい。

薬剤師の数について、和歌山市内は不足していないが、南へ行くにつれて、薬剤師不足がある。和歌山に薬学

部を設置する話を進めていただきたい。

1月に学術大会を実施し、2900名の参加があった。和歌山で開催すると、会場が数カ所にわかれ、不便である。県立文化会館近くに自治会館があるが、土日は空いていない。大規模な学会の実施に向けても施設の確保が困難となっている。

**【薬務課・福田課長】**

ジェネリックの備蓄医薬品について、備蓄医薬品は東日本大震災の時にDMATが持参した医薬品をベースにした形で、各病院の対応でジェネリックに変更していただいても問題はない。

**【仁坂理事】**

自治会館について、建設するとき、付近の住民との話で土日は閉鎖することになっているようである。今後検討する。

以上のように、活発な意見交換等がなされ、有意義な懇談会となった。

## ◇第4回和歌山認知症症例検討会報告

社会局渉外部部長 藤野 武英

去る平成27年8月20日（木）第4回和歌山認知症症例検討会が和歌山ビッグ愛（12F会議室）において盛大に開催されました。第3回の検討会では参加者が160名以上になり、開催施設の向陽病院の健診センターのキャパを超えてしまった為、会場変更となりました。

今回は、93名の他職種の先生方が参加され盛況に開催されました（医師5名・理学療法士33名・作業療法士23名・言語聴覚士21名・MSW5名・看護師1名・栄養士1名・介護士1名）。研修内容としましては、今回も2症例の発表で向陽病院の撫養藍先生（言語聴覚士）と西居竜弥先生（理学療法士）がコラボした内容で「認知機能低下と運動機能障害を呈した症例」と題してそれぞれの立場で評価を行いアプローチし機能向上を図った発表でした。2例目は中谷病院の青木健太先生（言語聴覚士）で「脳血管性認知症の1例」と題して嚥下機能面の評価、アプローチなどに対して、どのように介入していくかを検討していただきました。また、ミニレクチャーでは国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 認知行動科学研究室室長 大沢愛子先生から「認知症の記憶障害とリハビリテーション」と題して記憶の在り方、最近増加している社会的認知症についてなど認知の評価、行動学、介入などを詳しくレクチャーしていただき非常に勉強になりました。

次回、第5回検討会も11月末～12月の間の金曜日を予定しております。全国的にも認知症に対する事柄がクローズアップされていますので、先生方の担当している患者様で、環境や介入方法により行動に変化を呈した症例など報告していただければ嬉しく思いますので、どしどし症例検討の提示をしディスカッションの程よろしく願いいたします。

## ◇第20回和歌山県病院協会学術大会報告

社会局 池田 吉邦

去る平成27年11月1日（日）、ホテルアバローム紀の国において第20回和歌山県病院協会学術大会（881名参加）が、主催 公益社団法人和歌山県病院協会、後援 和歌山県、共催として県理学療法士協会・県作業療法士会・県看護協会・県栄養士会・県放射線技師会・県臨床検査技師会・県病院薬剤師会・県臨床工学技士会の8団体によって開催されました。

学術大会の企画は、要望演題（5演題）・一般演題（85演題）・ポスターセッション（7演題）・ランチョンセミナー・基調講演（「和歌山県における医療人育成にビジョンはあるのか」和歌山県立医科大学名誉教授 畑埜義雄 先生）・シンポジウム（5団体：看護協会・理学療法士協会・病院薬剤師会・栄養士会・臨床工学技士会）でした。

今年度のテーマとして「病院機能の向上」を掲げ、病院機能向上を図る為には病院を構成する職員の力が最も重要であるとの認識から、今後の病院に必要な人材の確保、育成を基調講演とし、その後「人材育成について」というテーマでシンポジウムが企画されていました。また、超高齢化社会の課題として要望演題では「認知症対策」をテーマに絞り5演題の報告がありました。一般演題では、各団体から85演題の発表があり、理学療法士では、第2会場で松井有史（和歌山国際厚生学院）・木村侑史（角谷整形外科病院）の両先生を座長とし、貴志将紀（河西田村病院）・松尾彰大（名手病院）・森信彦（山本病院）・坂上幸弘（寺下病院）・貴志太一（角谷リハ）・辻岡佑（紀和病院）・坂本篤

志（中江病院）・坂本健一（白浜はまゆう病院）の各先生方が発表されていました。

基調講演で畑埜義雄 教授は、指導者に求められるのは、若い人たちに価値観を植え付けること、そして「自己実現」の環境づくりが重要ではないかと言われ、人材育成はOJT（On The Job Training）が主体であり、職場の上司や先輩が、部下や後輩に対して具体的な仕事を与えて、その仕事を通して、仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを意図的・計画的・継続的に指導し、修得させることによって全体的な業務処理能力や力量を育成することに繋がる育成方法であると述べられていました。しかし、職場でのマンネリ化により、「まあ、これでよいか」という妥協心が起こり易く、組織が衰退する可能性もあるとの事で、組織・個々での十分なコミュニケーションが重要とも言われていました。

シンポジウムでも「人材育成について」のテーマから県理学療法士協会代表として上西啓裕先生（和歌山県立医科大学付属病院リハ部 療法士長）が、「理学療法士における人材育成システムの紹介～日本理学療法士協会・和歌山県理学療法士協会・職場での取り組み」について発表され、自らの人材育成の指導理念の中で、山本五十六語録より「やってみせ、言って聞かせてさせてみて、誉めてやらねば人は動かじ」「話し合い耳を傾け承認し、任せてやらねば人は育たず、やっている姿を感謝で見守って、信頼せねば人は実らず」を実践に活かすことは、畑埜教授のビジョンと共感できる考え方であると述べられていました。

今回のテーマでは、我々の組織作りにおいても非常に重要なエッセンスであったと思います。関係各位には、発表・運営協力など尽力頂きましたことお礼申し上げます。



## 広報局より

広報局担当理事 吉富 俊行

### ◇平成 27 年度 理学療法週間の報告

#### 1. 高校生の理学療法士勤務施設見学の実施（7/21～8/28）

県下 40 校に案内を配布し、見学希望日・施設の調整を行った。ホームページでも募集掲載したが、今年以下通り 4 名と少なく、毎年 20～30 名の参加者があったが残念であった。ご協力して頂いた会員の先生方、有難うございました。

7 月 24 日	新宮市立医療センター	新翔高校	3 年生 1 名	担当：楠本秀文
8 月 3 日	日比記念病院	新翔高校	3 年生 1 名	担当：田中雅也
8 月 17 日	紀和病院	伊都高校	2 年生 1 名	担当：前田直人
8 月 24 日	海南医療センター	海南高校	3 年生 1 名	担当：阪口和男

#### 2. 高野山での杖の無料点検会

日 時：平成 27 年 7 月 18 日（土）8：00～15：00

場 所：金剛峯寺奥の院 中の橋参道前

参加者：阪口・永春・中村（海南医療）、井澗（済生和歌山）、前田（紀和病院）、吉富（日赤）

今年で7年目となった高野山でのイベントで、理学療法パンフレットや協会オリジナル団扇（1300枚）、ポケットティッシュ（1300個）を配布しました。前日の豪雨の影響で観光客は少なく、杖先ゴムの交換は12個でした。イベントの内容は毎日新聞(7/31)に掲載されました。



### 3. 「理学療法の日」新聞広告掲載

7月17日の「理学療法の日」に4大新聞である朝日・読売・毎日（7/16）、産経（7/17）の和歌山版に「理学療法の日」特集記事を掲載し理学療法士のPRを実施しました。



### 4. 介護予防推進キャンペーン 全国統一イベントの開催（福祉・保健局との共催）

- 日 時：平成27年7月12日（日）9：00～12：00
- 場 所：和歌山市勤労者総合福祉センター
- 講 師：大淵修一 先生（東京都健康長寿医療センター研究所）
- 対 象：和歌山市民 36名
- 参加者：広報局（阪口・吉富）、福祉保健局部員
- 内 容：講演、身体機能評価、介護予防指導 毎日新聞（7/9）に予告記事が掲載された。

### ◇バリアフリー体験学習会（協会主催）の報告

- 1. 日 時：平成27年10月10日（土）8：00～11：30
- 場 所：広川町立南広小学校
- 対象者：6年生児童 保護者 教員 100名
- 参加者：大西（真寿苑）、上野山・三家（有田市立病院）、戸根・加藤・北崎（北出病院）  
林（有田南病院）、北野・中山・阪中（済生会有田）、阪口（海南医療）、前馬・吉富（日赤）

#### 「バリアフリー体験学習会」に参加して

北出病院 加藤 雄紀

平成27年10月10日に、和歌山県広川町南広小学校で小学生と保護者の皆様を対象に、バリアフリー体験学習会が行われました。参加者の皆様は、車椅子や松葉杖、義肢装具、自助具の説明や体験を通じて、高齢者や身体障害者の方々の生活や我々の職業について理解を深めて頂けたと思います。

今回の取り組みのように、バリアフリーやノーマライゼーションの考え方を地域の方々が理解することで、高齢者

や障害者が住みやすい地域を築いていく、良いきっかけになったのではないかと考えます。また、普段から患者様にリハビリテーションや福祉用具等の説明をしていますが、大勢の方々に説明する機会は少なく、人に伝える難しさを改めて痛感することができ、今後の臨床現場に活かせる貴重な機会であったと感じました。

これからもこのような機会があれば、参加させて頂きたいと思います。

### 「バリアフリー体験学習会」に参加して

北出病院 北崎 優奈

平成27年10月10日、バリアフリー体験学習会が広川町立南広小学校で開催され、協力要員として参加させて頂きました。理学療法士になって初めて児童や保護者の方々に私たちの職業について話をする機会であったためとても緊張しましたが、他の施設の先生、先輩方に助けて頂きながらなんとか終わる事が出来ました。

車椅子体験では、児童の皆さんが実際に車椅子に座った時に普段と違う目線になる事に驚いていたり、何気なく使用している通路や段差に怖さを感じたりしている様子を見て、そういったことを考えて患者様に接することが出来ていなかったかかもしれないと思いました。また車椅子の操作を介助者に行ってもらった場合、介助される側とする側での信頼関係が重要であるという事を改めて感じました。

今回の体験を通じて、身体障害者の方々の生活や私たちの職業について考えてもらえる良い機会となりました。今後もこのような活動があれば積極的に参加させて頂きたいです。



2. 日 時:平成27年12月3日 (木) 13:30~15:30  
場 所:海南市立中野上小学校  
対象者:6年生児童・PTA 36名  
参加者:阪口(海南医療センター)、吉富(日赤)

### ◇ふれあい人権フェスティバル2015への出展報告

- 日 時:平成27年11月14日(土) 10:00~16:00  
場 所:和歌山ビッグホエール  
内 容:POST会の合同出展、車椅子体験、パネル展示など  
参加者:阪口(海南医療)、藤野・井澗・辻(済生会和歌山)、里村・岡本・吉富(日赤)  
和歌山国際厚生学院4年生 4名



今年も残りあと少し。今年の大きなイベントと言えば、「2015 紀の国わかやま国体・わかやま大会」でしたね。理学療法士の中には、トレーナーとして関わった方、コンディショニングブースで関わった方など、たくさんいるかと思いますが。私は今回、和歌山県体操協会のスタッフのひとりとして、新体操の審判と運営で関わらせていただきました。

高校のクラブ活動でしていた新体操。高校卒業とともに引退しましたが、2009年にインターハイの新体操競技が和歌山市で行われることをきっかけに、審判として新体操の世界に戻ってきました。初めはルールも全くわかっていなかった私ですが、まさか国体で審判をすることになるとは、全く想像していませんでした。ここ数年は、度重なる審判の疲れと、開催県は入賞するのが当たり前というプレッシャーから潰れそうになることもありましたが、選手・監督・スタッフ達が本番に向けて死ぬほど頑張っている姿をみて、私もなんとか最後までやり遂げることが出来ました。



途中、選手のケガで、団体メンバーを変えないといけなかもしれないということがありましたが、チームトレーナーのサポートもあり、メンバーを変えることなく本番に挑むことができました。

国体本番は、今までにないくらいの方々の応援をいただいて、すごい歓声！！演技もほぼノーミスで、会場全体がひとつになったような気がしました。選手達がしんどい思いをしながら練習を頑張っていた姿を見ていたので、本番でみんなの笑顔を見ることができて本当にうれしくて、審判をしながらうるうるしていました。そして、結果は8位入賞！！昨年の長崎国体は36年ぶりの出場で21位だった和歌山チームにとっては快挙！！いろんな方のうれし涙を見られて本当に素敵な大会でした！！

実は高校時代は部活がしんどくて、何度も辞めようと思いましたが。でも、最後まで頑張ったからこそ（怖くて辞めたいと言えなかったからこそ？）、今でも何でも最後までやろうと思えるし、昔は先生と生徒だったのが、同じ社会人として顧問の先生と一緒に飲みに行くこともできたり、今は本当に辞めなくてよかったと思えます。今回の大会を見て、「最後まで諦めないことが大事」ということを改めて感じることが出来ました。

和歌山県理学療法士協会の方には、チームトレーナーやコンディショニングブースのスタッフとして関わっていただき、大変お世話になりました。みなさんの協力があったので、安心して大会が運営できたと思っています。本当にありがとうございました。このわかやま国体・わかやま大会が、みなさんの素敵な思い出になってくれたらいいなと思います。



## 地域局より

### 【紀北地域局】

紀北地域局担当理事 永金 宣秀

#### 第2回紀北地域局研修会・親睦会

日時：平成27年10月24日（土）15：00～

場所：名手病院 ホール棟 わかばホール（親睦会：紀の川市 桃太郎）

内容：第1部 中枢神経疾患「神経生理学的研究の知見から理学療法を考える」

講師：森 信彦（山本病院）90分

内容：第2部 整形外科疾患「運動器の基礎と臨床的評価～OMT概念を用いて～」

講師：濱 信吾（貴志川リハビリテーション病院）90分

参加者：14施設35名

#### 第1回紀北地域局症例検討会

日時：平成27年11月15日（日）9：00～

場所：紀和病院 4F ヴェルビーホール

内容：10題の症例検討会

座長：森本 宏（紀和病院）、朝倉 洋司（橋本市民病院）

### 【和歌山市地域局】

和歌山市地域局担当理事 辻中 清晃

#### メディカルサポート講習会（第2cブロック担当）

日時：平成27年7月5日（日）9：30～13：00（受付9：00～）

場所：角谷整形外科病院2階 第1理学療法室

内容：「投球障害の評価」

「国体軟式野球のサポート報告」

「過去の大会での実例を基にした、外傷・障害の評価と処置について」

講師：水谷 崇（辻秀輝整形外科）

岩城 光一（辻秀輝整形外科）

岩淵 和人（角谷整形外科病院）

鳥居 久展（角谷整形外科病院）

参加者：20施設43名



## 「和歌山県高校野球 メディカルサポート講習会」に参加して

寺下病院 坂上 幸弘

平成27年7月5日(日)に角谷整形外科病院で行われました「和歌山県高校野球メディカルサポート講習会」に参加させていただきました。今回の内容は、和歌山国体も間近ということもあり、辻秀輝整形外科の水谷崇先生に国体軟式野球チームのトレーナー活動報告を、辻秀輝整形外科の岩城光一先生に投球動作観察ポイントと投球障害肩の評価についての講義をしていただきました。実際の現場での風景やトレーニング、コンディショニングの方法、動作観察や評価の重要性を学ぶことができました。また、高校野球メディカルサポートにおける講習としては、角谷整形外科の鳥居久展先生にメディカルサポートにおける準備、角谷整形外科の岩渕和人先生にケーススタディーをしていただきました。

メディカルサポートに向けて各々が様々なことを想定して準備を行っておく必要があるということや、実際の現場のケースを想定した処置方法やテーピングの実施方法などの講習を行っていただきました。

実際に様々なスポーツの現場で活躍されている先生方の講習を聞いて、先生方と共に現場で貢献できるよう、技術や知識をさらに身につけていかなければならないと思いました。

最後に、今回ご指導いただきました先生方に感謝いたします。

### 第97回高等学校野球選手権大会和歌山大会メディカルサポート事業(第2cブロック担当)

日時:平成27年7月9日(木)~7月26日(日) (予備日含む)

会場:県営紀三井寺球場

内容:メディカルサポート事業

### 平成27年度理学療法専門研修会(第2bブロック担当)

日時:平成27年7月26日(日)9時~14時00分(8時30分受付開始)

会場:和歌山県立医科大学附属病院 臨床講堂1

内容:理学療法の基礎 B

B-1 一次救命処置と基本処置

B-2 クリニカルリーズニング

B-3 統計方法論

B-4 症例報告・発表の仕方

講師: B-1 高根 良輔(日赤和歌山医療センター)

B-2 中尾 和夫(琴の浦リハビリテーションセンター)

B-3 赤澤 直紀(河西田村病院)

B-4 橋崎 孝賢(県立医科大学付属病院)

参加者:93名

## 【中紀地域局】

中紀地域局担当理事 西川 典男

### 新人教育プログラムD1~D4(在宅医療を支える人材整備)

日時:平成27年8月23日(日)

場所:吉備ドーム

内容:D-1	社会の中の理学療法	(畑中)	83名参加
D-2	生涯学習と理学療法の専門領域	(浅井)	78名参加
D-3	理学療法の研究方法論(EBPT含む)	(安岡)	26名参加
D-4	理学療法士のための医療政策論	(永春)	13名参加

### 地域医療再生補助金事業

日時:平成27年9月26日(土)14:30~17:00

場所:吉備ドーム

内容:脳科学とリハビリテーション(地域医療再生補助金事業)

講師:竹林 秀晃(土佐リハビリテーションカレッジ 学科長)

参加者:19施設42名

## 各委員会より

### ■地域包括ケア推進特別委員会より■

#### ◇理学療法士長および会員の皆様にお願ひ

地域包括ケア推進特別委員会委員長 森本 昌信

前回ニュースにも掲載をさせていただきましたが、団塊の世代が75歳以上になる2025年に向けて重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となっています。

昨年の6月には、医療介護総合確保法が成立し、市町村が実施主体である介護予防・日常生活支援総合事業に、「地域リハビリテーション活動支援事業」が位置づけられました。そのような中で今年度9月より和歌山県長寿社会課高齢者生活支援室より地域包括支援センター機能強化事業を受託し、現在県内の各地域包括支援センターと調整を行い、地域ケア会議や介護予防事業の講師等の派遣を行っているところです。ご協力いただいております先生方にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。この事業は単年度の委託契約ですが、今後は各市町村から直接の依頼が増えることが予想され非常に重要な事業となってきます。

すでに、地域ケア会議への理学療法士の派遣や推薦依頼があり、また介護予防事業への協力依頼があり、当協会から推薦をさせていただき事業に参加していただいている施設・先生方もいらっしゃいます。

施設の理学療法士長の先生方はじめ会員の皆様方には、今後の依頼に向けてご協力の程よろしくお願ひいたします。

## 特集 紀の国わかやま国体・大会

#### ◇紀の国わかやま国体・わかやま大会を終えて

紀の国和歌山国体支援特別委員長 林 積司

平成24年1月21日にわかやま国体・わかやま大会に向けて、和歌山県スポーツ理学療法研究会設立に向けての会が参加人数79名から発足しました。発足に向けて県選手団のサポートと県外選手団に対してのコンディショニングルームを設置し、サポートするために年2回から4回の研修会を開催し会員の参加協力を促していきました。県選手団に対しては、平成24年より会員が競技別に競技団体との話し合いのなか本年度より参加協力を行うことになりました。国体のコンディショニングルーム設置については13競技17種目と体操競技救護班を予定。わかやま大会では2会場で競泳競技・陸上競技（身体・知的障害）で予定されましたが、最終的には、国体は7競技（ウエイトリフティング・高校野球軟式・高校野球硬式・新体操・レスリング・空手・剣道）とわかやま大会は2競技（障害者水泳・障害者陸上）の設置となりました。

県選手団については平成24年より競技別に参加し80名余りの会員の皆様方が協力を行っていただきました。

県外選手団のコンディショニングルーム設置においては、協会員に理学療法士協会のアピールのため、協会のロゴと協会名の入ったベストを着用し、各ブースでは協会のノボリと垂れ幕を設置しアピールを行いました。国体当日は、各ブースでの実施内容としてマッサージ、ストレッチ、運動指導、アイシング・テーピングなどが行われました。

今回の国体サポート及びコンディショニングルーム設置にあたり、事故などの問題も起こらず、無事に終了できたことは各会員の皆様方の選手団に対する気配りや配慮と高い理学療法技術の結果だと思います。また平日も含めこれだけの期間にたくさんの会員の方々の協力の下、無事終了できたことを嬉しく思います。

平成24年から準備を始め3年半もの長い間協力していただけた準備委員の方々や選手団サポートならびにコンディショニングルームの参加協力をいただいた会員の皆様方におかれましては大変ご苦勞様でした。

最後になりましたが参加をいただきました会員の所属施設の皆様方の協力をいただき、今回の国体開催では大変ご迷惑やご無理をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

今後とも会員の皆様方には協会事業への参加協力の程よろしくお願ひ致します。

## ◇紀の国わかやま国体コンディショニングルーム活動報告

### 【新体操競技】

貴志川リハビリテーション病院 林 京平

日 時：2015年9月3日～7日

場 所：ビッグホエール

参加者：各日、理学療法士3～4名、和歌山国際厚生学院の学生3名

2015年9月3日（木）より7日（月）までの5日間、和歌山市のビッグホエールにて新体操競技がありコンディショニングブースを設置し活動させてもらいました。各日、理学療法士3～4名と和歌山国際厚生学院の学生3名での参加でした。活動内容としては各都道府県チームの選手団に対してマッサージ・ストレッチ（指導も含む）・アイシング・テーピングです。初日と最終日に関しては利用者が1人という状況でしたが中日は30件を超える利用者にサポートを実施することができました。主にマッサージを希望する選手が多い中、選手の皆様方全員に満足いただけるようにサポートカルテにてしっかり問診も行いました。サポートを通して我々は普段の業務とは違ったニーズや競技特性における姿勢・動作の見方や考え方も議論することもありました。大変有意義な活動となったことと思います。ご協力・ご参加いただきました先生方、ありがとうございました。

表：実施内容および件数

	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	計
マッサージ	0	30	29	24	2	85
ストレッチ	0	6	6	9	0	21
アイシング	1	5	3	3	1	13
テーピング	0	2	0	1	1	4
※その他					1	1
利用件数	1	32	30	26	4	93
延べ合計	1	43	38	37	5	124

※擦過傷に対して絆創膏

### 【ウェイトリフティング】

日本赤十字社和歌山医療センター 前馬 直明

日 時：2015年9月27日～10月1日

場 所：片男波公園 健康館

参加者：各日、理学療法士3名 初日のみ和歌山国際厚生学院の学生3名見学

9月27日より5日間、コンディショニングブースを設置し運営させていただきました。ウェイトリフティング競技では国体でのコンディショニングブース設置が初回とのことでした。このため、初日は認知度が低く2件のみ実施と寂しい結果に終わりましたが、その後徐々に口コミにて利用件数が増加していきました。内容はマッサージ中心でしたが、カルテによる問診を全例実施し、高校生選手への運動指導なども行う事が出来ました。参加者3名/日と小さなウェイトリフティングコンディショニングチームでしたがチームワーク良く実施できたと思っています。参加・協力いただいた先生方大変お世話になり、ありがとうございました。



表：実施内容および件数

	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	計
マッサージ・ストレッチ	1	15	10	9	2	37
アイシング	1	1				2
テーピング			1			1
利用件数	2	16	11	9	2	40

※その他、利用者への運動指導4件



## 【硬式野球】

国保日高総合病院 小早川 眞一

日 時：2015年9月27日～30日

場 所：県営紀三井寺球場

参加者：各日、理学療法士4～5名

国体特別競技の高校野球硬式の部が9月27日から4日間、県営紀三井寺球場で開催されました。甲子園やU18ワールドカップ（18歳以下W杯）などで活躍した球児を一目見ようと、開幕日は全国から約7500人の観客が駆けつきたいへん賑わいました。決勝は東海大相模（神奈川）が中京大中京（愛知）を7-5で下して優勝し、夏の全国選手権との2冠を達成しました。

そんな中、我々コンディショニングサポートスタッフ9名（他に見学者としてPT1名、和歌山国際厚生学院生2名）は各日5名ないし4名体制で「選手達が気持ち良くプレイできるように支援しよう」ということで活動しました。主な活動の内容は出場12校の選手に対するテーピング、アイシング、ストレッチなどの処置でした。4日間のサポート件数は56件を数え、その7割が前半の2日間（共に4試合日）で実施されていました。

今大会では試合終了直後に取材や表彰式などが優先され、また選手が球場に留まる時間も少なく、アイシングやクーリングダウンに制約がありました。試合中においても、限られたわずかな時間の中で、焦りながらも適切な処置を実施する必要がありました。選手の訴えから速やかに適切な処置の判断をすることの重要さと大変さを改めて感じました。

印象的だったのは、チームの枠を超えた選手同士のコミュニケーション、それに負けたチームの選手も笑顔で球場を後にしていたこと。県大会のサポートでは経験できないこともあり有意義な活動となりました。

最後に、打ち合わせや事前研修、準備にご協力くださった先生、ならびにサポートスタッフとしてご協力くださった先生に感謝申し上げます。誠に有難うございました。



表：実施内容および件数

	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	計
アイシングのみ	13	11	5	3	32
ストレッチのみ	0	0	0	0	0
テーピングのみ	4	6	6	3	19
アイシング&テーピング	2	2	0	0	4
アイシング&ストレッチ	1	0	0	0	1
サポート件数（カルテ数）	20	19	11	6	56

**【レスリング】**

くしもと町立病院 横嶋 博充

日 時：2015年9月27日～30日  
 場 所：那智勝浦町立体育館  
 参加者：各日、理学療法士2名

2015年9月27日から9月30日までの4日間、那智勝浦町立体育館において行われたレスリング競技に理学療法士協会のコンディショニングルームを設置し活動してきました。

1日2名の体制で、マッサージ、ストレッチ、アイシング、テーピングを看板に挙げ対応にあたりました。

レスリングは国体の競技の中でも最も強い運動強度のスポーツということで、怪我や障害の選手が多く、大会期間中連日、アイシング、テーピングを中心に沢山の依頼がありました。

治療部位は体幹、上肢、下肢に加え、顔面、手指と多岐にわたりました。擦り傷や切り傷も多かったことも特徴とされます。課題は試合前、特に午前中の時間帯に、人手不足、物品不足を感じたことが浮かびます。

今回、準備段階、構想から大会当日まで、関わって頂いたスタッフ皆様のお蔭で有意義な活動を行うことが出来ました。ありがとうございました。

表：実施内容および件数

	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	計
マッサージ	3	4	4	3	14
ストレッチ	2	2	6		10
アイシング	5	7	13	1	26
テーピング	2	6	1	1	10
*その他		2	1	1	4
利用件数	12	21	25	6	64

**【高校軟式野球】**

白浜はまゆう病院 森本 信三

日 時：2015年9月27日～30日  
 場 所：サン・ナンタンランド野球場（串本町）、くろしおスタジアム（新宮市）  
 参加者：各日、理学療法士2名

高等学校野球(軟式)競技会は2015年9月27日（日）より30日（水）まで4日間、串本町のサン・ナンタンランド野球場(1・2回戦)と新宮市のくろしおスタジアム(1回戦～決勝)の2会場で開催されました。サン・ナンタンランド野球場では、理学療法士協会のコンディショニングルームは設置されていませんでしたが、串本町のおもてなしブースのコンディショニングルームでくしもと町立病院の岸尾先生が関わっており、くろしおスタジアムの理学療法士協会コンディショニングルームと連携を取らせて頂き活動させて頂きました。各日程に理学療法士が2名参加しました。

活動内容としては各チームのコンディショニング希望者に対してマッサージ・ストレッチ（指導も含む）・アイシング・テーピングを施行しました。初日は雨天中止の決定までコンディショニングルームを開設していましたが利用者はいませんでした。2日目以降は数名の利用者に対してサポートを実施することができました。

サポートスタッフの多くはスポーツ選手のコンディショニング関わられていない先生が多くいるなか、普段の業務後にテーピングの練習など行ない、十分な準備をして頂きました。私自身、責任者として至らない点が多くある中、お忙しい中ご協力・ご参加して頂きました先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

表：実施内容および件数

	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	計
マッサージ	0	2	2	3	7
ストレッチ	0	0	2	0	2
アイシング	0	1	3	5	9
テーピング	0	2	0	1	3
※その他	0	0	0	0	0
利用件数	0	2	3	6	11
延べ合計	0	5	7	9	21

※擦過傷に対して絆創膏

**【空手道】**

白浜はまゆう病院 朝間 知樹

日 時：2015年10月3日～5日

場 所：白浜町立総合体育館

参加者：各日、理学療法士3名

2015年10月3日(土)から5日(月)まで3日間、白浜町の白浜町立総合体育館にて空手道競技会がありコンディショニングブースを設置し活動させていただきましたのでご報告いたします。

3日間とも理学療法士3名体制で待機し、ブースに来た選手に対してマッサージ、ストレッチ、アイシング、テーピングなどを実施いたしました。具体的な実施内容としましては、全身のだるさを訴える選手へのマッサージやストレッチ、打撲による腫脹、疼痛に対するアイシングの利用が比較的多い結果となりました。実施件数では初日、最終日には利用件数は少なく、中日には12名の利用という状況でした。

利用件数自体はあまり多くありませんでしたが空手道という競技に関わることができ、コンタクトスポーツにおけるサポートの特性を学ばせていただく良い経験ができたと思います。

ご協力いただきました先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

表：実施内容および件数

	10月3日	10月4日	10月5日	計
マッサージ	1	8	0	9
ストレッチ	0	3	0	3
アイシング	1	5	1	7
テーピング	1	5	0	6
※その他	1	2	0	3
利用件数	4	12	1	17
延べ合計	4	23	1	28

※10月3日は爪切り、4日は擦過傷に対して絆創膏

**【剣道競技】**

くしもと町立病院 小早川 浩司

日 時：2015年10月3日～5日

場 所：那智勝浦町体育文化会館

参加者：各日、理学療法士2名

2015年10月3日(土)より5日(月)まで3日間、那智勝浦町的那智勝浦町体育文化会館にて剣道競技があり、コンディショニングブースを設置し活動させていただきました。各日、理学療法士2名での参加となりました。活動内容としては各都道府県チームの選手団に対してマッサージ・ストレッチ(指導も含む)・アイシング・テーピングです。サポートを通して我々は、ニーズや競技特性における姿勢・動作の見方や考え方から、普段の業務を再考する良い機会となり、大変有意義な活動になったと思います。

ご協力・ご参加いただきました先生方、3日間暑いテントの中での活動ありがとうございました。

表：実施内容および件数

	10月3日	10月4日	10月5日	計
マッサージ	32	23	6	61
ストレッチ	27	24	6	57
アイシング	1	3	1	5
テーピング	3	9	1	13
*その他	0	3	1	4
利用件数	33	38	8	79
延べ合計	63	62	15	140

\*アドバイス、テーピング貸し出し、自己テーピング

## ◇紀の国わかやま大会コンディショニンググループ活動報告

### 【陸上競技】

済生会和歌山病院 石橋 昭人

日 時：2015年10月23日～26日

場 所：紀三井寺公園競技場

参加者：理学療法士37名、学生4名

紀の国わかやま大会での陸上競技（身体・知的障害）選手を対象に、紀三井寺公園補助競技場内に、和歌山県からの依頼により県理学療法士協会主催でコンディショニングブースを設置しましたので報告致します。

10月23日（金）から26日（月）までの4日間で、選手利用が述べ507件という驚異的な数の選手がブースに来れましたが、トレーナーの先生方の協力のお陰でなんとか無事に終える事が出来ました。

ブースでは大会期間中であるという事を考慮し、選手のNeedを最優先にコンディショニング等を実施しました。

今回のブース設置にあたり17施設37名もの先生方及び4名の理学療法学科学生さんに協力して頂きました。私からの協力依頼を快諾して下さい、感謝しています。心からお礼申し上げます。また今回多くの若手の先生方にご協力頂きました。今回のようなスポーツ現場で得られた経験が日々の臨床にも活かされ、セラピストとしての視野を広げるきっかけになると確信しています。

表：実施内容および件数

	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	計
マッサージ	90	117	179	52	438
ストレッチ	64	80	141	41	326
アイシング	1	8	5	1	15
テーピング	11	23	32	14	80
利用件数	96	136	213	62	507



## きのくに和歌山大会(障害者陸上)コンディショニングトレーナーを経験して

貴志川リハビリテーション病院 原井 祐弥

2015年、10月24日(土)・10月25日(日)の2日間、きのくに和歌山大会障害者陸上競技コンディショニングブースのトレーナーとして参加させて頂きました。

障害者スポーツのトレーナー参加は初めてであり、特に初日は選手の皆様の身体状況や希望の把握・評価・アプローチ、業務の流れや陸上競技特有のコール時間、試合時間の把握といった普段経験しているトレーナー活動と違う面に緊張・不安を感じながらの業務となりました。

しかし、限られた時間の中で選手の評価を行い、ウォーミングアップやテーピング・試合後のダウン(マッサージ)などを実施していくことに楽しさを感じながら業務を行うことができました。

関わらせて頂いた選手の皆様が「凄く動きやすくて自己ベストが出せました」「おかげで優勝できました」「ありがとうございました、明日もお願いします」など笑顔であいさつに来て下さり、トレーナー業務のやりがいや感動を多く経験させて頂くことができました。

今回経験させて頂いた「感動」や「やりがい」は、私をはじめ参加させて頂いた当院の後輩セラピスト達にとっても貴重な経験であり、今後の理学療法士活動に繋がる貴重な時間を頂けたと思っております。

選手の皆様が笑顔でお礼に来て下さった時の感動は一生忘れることが出来ません。

そして、他の病院や施設で働かれている先輩セラピストの方々の知識や技術を目の当りにする機会を頂き、多くの刺激を受けることにも繋がりました。

「きのくに和歌山国体」「きのくに和歌山大会」は理学療法士である私に多くの経験や刺激を与えてくださり、私が理学療法士として生きる上で欠かすことのできない財産になったと考えております。

また、コンディショニングブースのトレーナー活動を行っていく上で、私達若手セラピストが動きやすい環境を準備して下さった多くの先輩セラピストの方々に感謝しております。ありがとうございました。

今後も日々の臨床で自己研鑽に励み、先輩セラピストの方々に追いつけるよう努力して参りますので、宜しく願い致します。

### 【競泳競技】

日本赤十字社和歌山医療センター 高根 良輔

日 時：2015年10月23日～10月26日

場 所：秋葉山県民水泳場

参加者：23日7名、24日15名、25日15名、26日8名

内 容：各都道府県参加者に対するマッサージ、ストレッチ、運動指導、アイシング、テーピングなど

2015年10月23日(金)～26日(月)までの4日間、秋葉山県民水泳場にて競泳競技があり、コンディショニングブースを設置し、活動させて頂きました。23、26日は理学療法士8名程度、24、25日は15名程度と手話対応の方が各日2名での参加でした。活動内容としては各都道府県チームの選手団に対して、マッサージ・ストレッチ(指導も含む)・アイシング・トレーニング・日常生活でのケアの指導を行いました。公式練習日の23日は利用者が9人という状況でしたが、試合日の24日～26日(最終日は午前中のみ)は多くの方に利用させて頂きました。主にマッサージ、ストレッチを希望される選手が多く、各スタッフ未経験の方も多量中、試行錯誤を繰り返しながら、選手の希望に沿えるよう、対応させて頂きました。選手の方々が、「診てもらってよかったよ」「良い結果出たよ」と笑顔で報告して下さい、各スタッフとも非常に有意義な活動になったかと思えます。慣れない運営の中、ご協力頂きました先生方、ありがとうございました。

表：実施内容および件数

	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	計
マッサージ	7	67	66	28	168
ストレッチ	5	51	55	18	129
アイシング		2	2	1	5
テーピング		1		1	2
※その他	1	5	8	2	16
利用件数	9	69	77	28	183
内容延べ合計	14	127	131	40	312

※日常生活動作での注意点、自主トレ、促通を含めた運動など



## 第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」に参加して

紀州リハビリケア訪問看護ステーション 山本 真志

今回私は、10月24日から10月26日に行われた、紀の国わかやま大会の水泳競技に、和歌山県選手団のコーチ（選手の補助）として前日練習を含め、4日間同行させていただきました。大会には肢体不自由者、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者など様々な選手が参加していました。その中で私が担当させていただいたのは、視覚障害をもった方で、ほぼ全盲に近い状態でした。そのため、競技においてもゴール時にタッピングをおこなわなければなりません。タッピングとは、ゴールに近づいてきた選手の頭を棒で軽く触れタッチのタイミングを知らせる作業です。今回、この大役を任せられ、初めはなかなか上手いきませんが、本番で少しでも早いタイムが出せるよう、限られた時間で何度も練習し、練習後も2人で話し合いました。結果、銀メダルと銅メダルを獲得することができました。4日間、競技以外でも生活を共にし、盲人の方の大変さがとてもよくわかりました。自宅などの慣れた環境では、自分のペースでなんとか生活できるものの、今回のような初めての場所や、人ごみでの移動、集団行動は手助け無しには難しいとのことでした。

今大会に参加させていただいたことで、普段は出会うことのない人たちと出会うことができ、臨床とは違った大変貴重な経験をさせていただきました。

# 頭を棒でポン 泳ぎ支援



森本弘義選手（右）にゴール間近であることを知らせる山本真志さん。不安を和らげる大切な役目を果たす＝和歌山市秋葉町

## タッピング壁タッチ導く

目の不自由な競泳競技の選手を支えるのが「タッピング」だ。折り返す時やゴールに近づいてきた選手の頭を棒でポンとたたき、心の準備を促す。壁にタッチするタイミングをつかむことは、記録の短縮だけでなく、けがの防止にもつながる。県選手団の森本弘義選手（右）と山本真志さん（左）は、和歌山市秋葉町民水泳場（和歌山市秋葉町）で練習中。

「ゴールから2分くらい離れたところで頭をたいてほしい」。秋葉山公園東民水泳場（和歌山市秋葉町）で練習中。

## 山本さん、視覚障害・森本選手と二人三脚

町）で18日あった強化練習で、森本選手が山本さんに提案した。「コミュニケーションが大切」と2人は「腕をしっかりと伸ばしてタッチ出来なくなった。」

山本さんは視覚障害者スポーツ協会から選手支援の依頼を受け、森本選手のタッピングを任された。日頃は、理学療法士として訪問看護の仕事をしている。高校まで競泳選手で、「助けてもらっている」と思っていたが、「初めてやるのが難しい」と重責の緊張をのぞかせる。

森本選手は、25分の自由形と平泳ぎに出場する。45歳ごろまで車運転ができる視力があつたが、「網膜色素変性症」の診断を受け、年々目が見えなくなつた。派遣会社員として大手の製菓会社などで20年ほど研究に携わっていたが、6年前にやむなく退社。2017年に盲学校に進学して指針の勉強を始め、国家資格を取得した。現在は自宅で治療を営んでいる。いま右目は光の有無が分かる程度。左目の視力も0.02ほどだ。

競泳は5年前から健康作りもあつて始めた。当時はまだ「壁との距離感をつかめていた」ので自力で最後まで泳げた。しかし、年を重ねるごとに見えらなくなると、突き指などを恐れて「腕をしっかりと伸ばしてタッチ出来なくなった。」

そこで、2年前から大会で「タッピング」をお願いするようになった。「おかげで泳ぎに集中できるようになり、恐怖感も和らいだ」といふ。

「タッピング」で難しいのは平泳ぎ。頭が水面から出て出ているクローリングに対して、呼吸の時だけ頭をのぞかせる平泳ぎはタイミングを合わせるのに苦労する。失敗すると、記録に大きく影響が出る。

山本さんは「森本さんの泳ぎのリズムと進み具合をちゃんと覚えればうまくいくと思う。少しでも良いタイムで泳げるように全力で支える」と話す。森本選手も「私のために力を尽くしてくれる人たちのために、一番良い色のメダルをとりたい」と意気込んでいる。（森本貴）

24日に第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」が開閉する。選手や観客を陰ながら支える人々を紹介する。（3回連載）

他団体・他士会からのニュース 学術誌の受領報告 (H27.6.16～H.27.11.10)

【ニュース】

- |                         |                                 |
|-------------------------|---------------------------------|
| (公社)兵庫県 No.160.         | (公社)山梨県 No.145.                 |
| (公社)新潟県 No.170, No.171. | (公社)大分県 No.104(165).            |
| (公社)滋賀県 No.191.         | (一社)静岡県 No.152.                 |
| (公社)広島県 No.239.         | (公社)佐賀県 No.102.                 |
| (公社)愛知県 No.178.         | (公社)大阪府 No.249, No.250, No.251. |
| (公社)神奈川県 No.265.        | (一社)京都府 No.265, No.266.         |
| (公社)秋田県 No.165, No.166. | (一社)岐阜県 No.113, No.114.         |
| (一社)群馬県 No.122.         | (公社)長崎県 No.52.                  |

【学術誌・学会誌・機関誌・記念誌】

- ・埼玉県理学療法士会会報 平成 27 年 第 81 号
- ・介護保険の福祉用具サービスにおける専門職の関与と適切なケアマネジメントに関する調査研究事業  
平成 27 年 3 月
- ・愛知県理学療法学会誌 Vol.27 No.1 2015
- ・志(こころざし) 第 6 号 (公社)大分県理学療法士会 広報誌
- ・専門的知識を有する福祉用具専門相談員の養成に向けた研修内容に関する調査研究事業 調査結果の概要
- ・年報 ひたちの 平成 26 年度
- ・理学療法いばらき Vol.19 2015
- ・和歌山県理学療法士連盟ニュース 2015.7 No.5
- ・奈良県理学療法士会会誌 No.21 2015
- ・静岡理学療法ジャーナル 第 31 号 (第 19 回 静岡県理学療法士会学会誌)
- ・熊本県理学療法士協会 かくどけい Vol.119
- ・言の葉 和歌山県言語聴覚士会機関誌 第 15 号
- ・埼玉県理学療法士会会報 平成 27 年 第 82 号
- ・理学療法群馬 No.26 2015
- ・第 20 回 和歌山県病院協会学術大会
- ・和歌山県鍼灸師会会報 2015 年度 第 23 号
- ・和歌山県病院協会会報 平成 27 年 9 月号 No.228
- ・第 66 回北海道理学療法士学術大会 プログラム・抄録集

以上の刊行物をご覧になりたい方は、事務局、資料調査・管理部の酒井雄亮氏(琴の浦リハビリテーションセンター)までお問い合わせ下さい。

## ■事務局からのお願い■

庶務部より

庶務部長 小田 佳亮

### 施設長名変更時のお願い

変更があった場合、速やかに協会庶務宛にFAXまたはメールにてご連絡下さい。

協会事務局 FAX：073-446-1207

メールアドレス：wpt-shom@pt-wakayama.or.jp

記載の内容に関しては、変更前の氏名と変更後の氏名の両方を記載お願いします。

また、フリガナの記載もよろしくお願ひ致します。

FAXにて送信して頂く場合は文字を大きめで崩さずに記載して頂けるようにお願いします。

### 会員異動申請について

会員の皆様の中で、自宅会員として異動申請される方がいます。

日本理学療法士協会において、会員区分として下記のとおり勤務先をもつ会員は勤務先会員となります。

これは、和歌山県理学療法士協会でも同様です。

自宅会員とは勤務先を持たない会員のことで、パート勤務の会員で、現在の登録が自宅会員となっている先生方は、再度異動申請の手続きをお願いいたします。

#### 【会員区分について】

勤務先会員	勤務先をもつ正会員 <u>※非常勤の方も勤務先をもつ場合は勤務先会員をご選択ください</u>
自宅会員	勤務先をもたない正会員および休会会員
海外会員	海外に居住する正会員

#### 【所属都道府県士会について】

勤務先会員	勤務先がある県の士会に所属
自宅会員	自宅がある県の士会に所属

(日本理学療法士協会 HP より)

## 編集後記

2015年も終わりを迎え、振り返ってみると今年も色々ありました。明るいニュースではラグビーワールドカップでの日本の活躍は感動的でした。反面世界的には各地でテロ行為が頻発し多くの命が奪われました。フランスやアメリカでの銃撃、日本人の拉致殺害事件も忘れる事が出来ません。日本国内では日本の将来を大きく左右するかもしれない集団的自衛権について大きな論争がありました。改めて政治について深く考えさせられました。我々理学療法士として一人一人の患者さんと向き合うなかで、多くの命を奪うテロや戦争は許しがたい行為です。来年の参議院選挙についても、国民の医療健康に携わるものとして、国民の為、又我々自身の為に、政治について個々に考える必要があるのではないかと考えています。

和歌山県士会としては、本号に沢山の報告記事が掲載されているように、多くの事業がありました。今年は何をおいても、紀の国わかやま国体・わかやま大会へ色々な形で参加された会員が沢山いました。選手と共に参加した会員にとっても忘れられない大会となった事と思います。また学術局、福祉・保健局、広報局等の協会事業へ参加・協力をいただいた先生方、本当にご苦労様でした。今後も行政や地域と密着した地道な活動が介護予防事業に繋がっていくのではないかと考えています。盛り沢山の本号をまとめるには言葉足らずですが、2015年皆様御苦労様でした。

(広報局広報推進部長 阪口 和男)



公益社団法人

# 和歌山県理学療法士協会

公益社団法人 和歌山県理学療法士協会  
〔事務局〕  
琴の浦リハビリテーションセンター内  
〒641-0014 和歌山市毛見1451  
TEL 073(499)5000